



本当に安全？危険やリスクは？

仮想通貨

昨年、急激に注目を浴び始めた仮想通貨、いまやニュースや新聞でもよく取り上げられており、新たな投資商品として人気が高まっています。しかしながら、不正流出などのトラブルも発生しており、「仮想通貨ってそもそも何？」「本当に安全なの？」と疑問を抱いている方も多いのではないのでしょうか。今回は仮想通貨とはどんな通貨なのか、簡単に概要をご紹介します。

仮想通貨とは

仮想通貨とは、ブロックチェーンなどの暗号技術を組み合わせて成立する、国家による価値の保証を持たない電子的な通貨のことを指します。そのため、「暗号通貨」とも呼ばれています。

紙幣や硬貨のように形があるわけではなく、インターネット上にある、データ化されているお金です。仮想通貨は、インターネット上でしか使えないように思われることが多いですが、日常生活でも仮想通貨が使える場面は、徐々に増えています。例えば、家電量販店やレストランなどでも仮想通貨を決済手段として導入するお店が出てきています。また、仮想通貨は日本政府にも資金決済に関する法律において定義されており、「財産的価値」を認められています。

電子マネーとの違い

混同されやすい「電子マネー」は、円やドルを「電子マネー」という形態に変えただけのものです。そのため、実質的には円やドルという通貨で支払っているのと変わらず、円の価値が変わらなければ、「電子マネー」の価値も変わらないともいえます。また、電子マネーは電子マネーサービスを発行している会社に依存している、中央集権的サービスです。一方で仮想通貨は円やドルなどと同列に語られる「通貨」の一種で、価値は日々変動します。また、仮想通貨それ自体はどこかの組織に管理されることのない、分散型の仕組みをもつ通貨です。

仮想通貨の種類

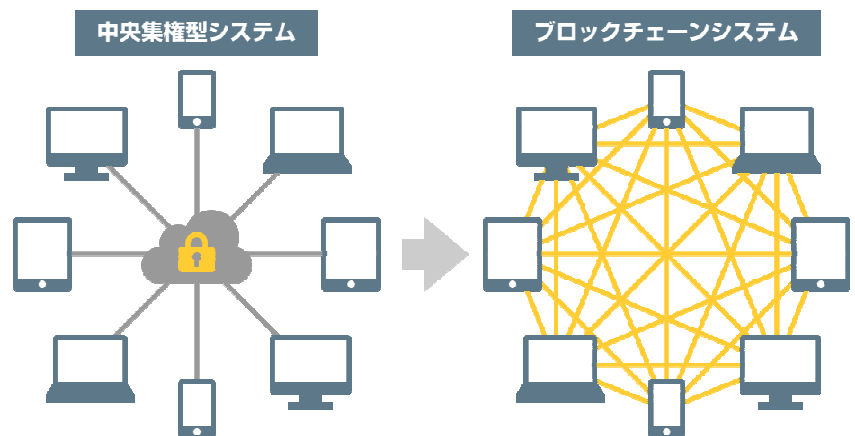
仮想通貨は1500種類以上あると言われていますが、日本の仮想通貨取引所に上場している仮想通貨は全部で14種類です。1500種類の中には詐欺コインや脆弱性のあるコインも多いので、国内の取引所に上場するには金融庁の許可が必要なのです。



安全性とブロックチェーン技術

「仮想通貨」が通貨として機能し、サービスが成り立つ上で非常に重要な技術と言われているのが「ブロックチェーン」技術です。ブロックチェーンを簡単に説明すると「全ての取引履歴の集合体」となります。ブロックチェーン技術は取引データを世界中に点在するコンピューターに分散して記録させており、中央集権的ではない点が特徴です。そして、この分散型の仕組みが高いセキュリティを実現しています。ブロックチェーンには、全取引履歴のデータが記録されています。それらをみんなで監視しあい、管理を分散させることで高い秘匿性を実現した技術であるため、注目を集めています。そのため、誰かが一部のデータだけを改ざんしても、他の全てのパソコン上の取引データを改ざんしない限りは、すぐに改ざんが判明する仕組みです。

当然電子的な情報でありネット上で取引が行われていくため、インターネットを使うときと同様の危険性、注意点はつきまといます。これはインターネット一般について言える注意ですが、仮想通貨の場合は情報が漏れるとそれがお金に直結してしまうので、セキュリティには細心の注意を払う必要があります。



メリットとデメリット

◇メリット◇

- ・投資で資産が何倍にもなる可能性がある
- ・送金が高速でしかも手数料が安い
- ・海外で両替せずに使うことができる
- ・特定の国家や銀行に依存していない
- ・仮想通貨決済システムの導入コストが低い

◆デメリット◆

- ・盗まれる可能性がある
- ・電気がないと使えなくなってしまう
- ・値動きが激しく大損する可能性大
- ・発行が簡単なため、詐欺通貨が多い
- ・ネットワークを乱す攻撃が存在する

日本での普及率はまだ低い状態ですが、先の未来には世界共通のお金として、もっと便利になっているかもしれません。実際に仮想通貨を使える日本のお店は 2016 年の 4500 店舗から 2017 年には一気に 26 万店舗に急増しています。

仮想通貨にネガティブなイメージをもつ人はまだまだ多いです。しかし興味をもつ人が増えているのも事実であり、今後、仮想通貨の普及率が高まれば、自ずとネガティブなイメージも変わり、仮想通貨が一般的に使われるようになるかもしれませんね。